

令和5年度
教育行政に関する点検評価報告書

鏡石町教育委員会

目 次

1	趣 旨	1
2	点検評価の対象とする事務事業について	1
3	鏡石町教育行政点検評価（事務事業評価）の構成	2
4	評価方法	3
5	総合評価	4
6	評価結果の公表	4
7	実施スケジュール	4
8	点検評価報告書	5～27
No. 1	適応指導教室運営事業	5
No. 2	理科振興事業	6
No. 3	学力向上支援事業	7
No. 4	元気キッズサポーター派遣事業	8
No. 5	小学校町民プール利用事業	9
No. 6	情報化教育推進事業	10
No. 7	語学指導等外国青年招致事業（児童国際化推進事業含む）	11
No. 8	通学バス乗車券購入補助事業	12
No. 9	教育支援事業	13
No. 10	特別支援教育支援事業	14
No. 11	放射線教育体験事業	15
No. 12	多子世帯学校給食補助事業	16
No. 13	幼稚園子育て支援事業	17
No. 14	育英資金貸付事業	18
No. 15	社会教育関係団体支援事業	19
No. 16	家庭教育学級事業	20
No. 17	学校支援地域本部事業	21
No. 18	生涯学習の振興	22
No. 19	社会教育推進事業	23
No. 20	図書館事業	24
No. 21	子ども会球技大会	25
No. 22	鏡石駅伝・ロードレース大会	26
No. 23	体育施設管理運営事業	27

1 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。

鏡石町教育委員会では、令和5年度における主要事務事業に関し点検・評価を行い、教育に関し学識を有する方々で構成された「鏡石町教育行政点検評価委員会」の意見を付して報告書の作成・公表することとしています。

2 点検評価の対象とする事務事業について

事業評価する項目は原則として、第6次総合計画の位置づけを基に、令和5年度鏡石町教育委員会(教育課)主要事務事業から、義務的・経常的なもの等除いた事業について点検・評価しました。

令和5年度鏡石町教育委員会(教育課)主要事務事業

(1) 教育グループ

1	適応指導教室運営事業
2	理科振興事業
3	学力向上支援事業
4	元気キッズサポーター派遣事業
5	小中学校町民プール利用事業
6	情報化教育推進事業
7	語学指導等外国青年招致事業(児童国際化推進事業含む)
8	通学バス乗車券購入補助事業
9	教育支援事業
10	特別支援教育支援事業
11	放射線教育体験事業
12	多子世帯学校給食補助事業
13	幼稚園子育て支援事業
14	育英資金貸付事業

(義務的・経常的事業)

- ・ 要保護準要保護児童生徒援助費・特別支援教育就学奨励費援助事業
- ・ 教育委員会外部評価事業
- ・ 施設設備の維持管理業務
- ・ 学校設備備品の整備
- ・ 学校給食業務委託事業
- ・ 教材備品等の整備
- ・ 学校司書配置事業
- ・ 学校図書整備事業
- ・ 幼稚園奨励金支給事業

(2) 生涯学習グループ

1	社会教育関係団体支援事業
2	家庭教育学級事業
3	学校支援地域本部事業
4	生涯学習の振興（各世代の学級・講座）
5	社会教育推進事業（まちづくり講座・単科講座）
6	図書館事業
7	子ども会球技大会
8	鏡石駅伝・ロードレース大会
9	体育施設管理運営事業

(義務的・経常的事業)

- ・ 成人式
- ・ 文化講演会
- ・ 町指定文化財環境整備事業
- ・ 牧場の朝ふるさと祭り支援事業
- ・ 社会体育関係団体支援事業（体育協会等）
- ・ ふくしま駅伝

3 鏡石町教育行政点検評価（事務事業評価）の構成

(1) 事業の目的・内容

事業の目的には何のために当該事業を行っているか、事業の内容は目的のためにどのようなことをしているのか記入してあります。

(2) 実績・成果

点検評価対象年度の活動実績・成果が記入してあります。

(3) 事業費

点検評価対象年度の決算見込額と前年度の決算額が記入してあります。

(4) 課題

対象事業の課題が記入してあります。

(5) 事業の評価・意見

鏡石町教育行政点検評価委員の方々からいただいたご意見と評価が記入してあります。

(6) 今後の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるか選択します。

4 評価方法

「鏡石町教育行政点検評価委員会」で事業について実績・成果などを「必要性」、「有効性」、「効率性」、「達成度」で評価したうえで、事業の各評価項目の点数を基に総合評価のランク付けを行いました。

評価	評価の視点	点数			
		4	3	2	1
必要性	事務事業は町民ニーズや社会情勢にあっているか 町が事業を行う必要があるか	増加	横ばい	減少	かなり減少
有効性	施策や運営方針、町の総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているか	十分寄与	概ね寄与	あまり寄与していない	寄与していない
効率性	コストがかかりすぎているか、 業務面等効率的に執行されているか	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
達成度	事務事業の達成状況はどうか	十分できている	できている	あまりできていない	できていない

5 総合評価

各評価項目の評価点数を基に、総合評価のランク付けを行います。

ランク	評価点数	内 容
A	16～14	優れた取組が多く、十分成果が上がっている。
B	13～11	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。
C	10～8	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多い。
D	7～	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要。

6 評価結果の公表

公表に際しては、事務事業評価表を作成し議会へ報告します。また、評価結果は町民に公表します。

7 実施スケジュール

実施時期	内 容
5月～6月上旬	教育委員会による評価作業の実施
6月20日	鏡石町教育行政点検評価委員会第1回会議・委嘱状交付 ・会長及び職務代理者の選出 ・教育行政点検評価内容説明・質疑等
6月28日	委員からの意見徴収・項目ごとに各委員より意見を記入し提出
7月8日	鏡石町教育行政点検評価委員会第2回会議・教育行政点検評価意見の集約
7月12日	委員に対する教育行政点検評価表最終確認
7月25日	教育委員会7月定例会議案提出・議決
8月21日	議会全員協議会へ報告
9月下旬	町HPで公表

点検評価報告書

No.	1	事業名	適応指導教室運営事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	------------	----	--------

事業目的・内容	<p>不登校状態にある児童生徒に対し、カウンセリングや小集団活動を通し、自主性や社会性を高め学校復帰を支援する「若草教室」の運営に務める。</p> <p>◆名称 「若草教室」 ◆場所 鏡石町保健センター・鏡石町勤労青少年ホーム内 ◆開設 月曜日～金曜日のうち4日（9：00～12：00） ◆内容 自主学习、課題学習（自分にあった教科学習）、体験的学習 軽運動やゲーム、その他（清掃、反省 等）</p>												
	事業実績・成果	<p>◎不登校状態の児童生徒のカウンセリングや学校復帰を目指すため、相談支援や学習支援を行った。 ◎指導員：1名配置 ◎入級児童生徒数 小学生：0名、中学生1名（2年生） ※（R4、小学生0名、中学生2名）</p> <p>○通級している生徒に対し、学校復帰できるよう相談や学習支援を行った。 ○通級していた生徒は、当初、週1日であったが、相談や支援を行った結果、通級できる日数と時間が増え、徐々に進学を視野に入れて本人なりに成長が見られている。 ○学校や関係機関と連携を図り、今後の進路について本人の意思を尊重し相談支援を実施した。</p>											
事業費		R5（単位：千円）						R4（単位：千円）					
	3,238	国庫支出金		起債		その他	3,238	2,878	国庫支出金		起債		その他
課題	<p>●若草教室から学校への復帰の壁が高い。 ●学校に行けない児童生徒が利用しやすいよう、また居場所としての教室であることを、学校と連携し、児童生徒や保護者へ周知していく必要がある。</p>												
	事業の評価	<p>●不登校児童生徒の学びの場や居場所を保障すること、また、利用しやすい環境づくりが必要である。 ●関係機関を連携し利用しやすい環境づくりに努め、不登校状態にある児童生徒の利用につなげる必要がある。</p>											
R5		必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	3	合計	15	評価	A
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	4	合計	16	A		
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続				

No.	2	事業名	理科振興事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	--------	----	--------

事業目的・内容	<p>新学習指導要領の中では、体験型の理科実験や観察などが重視されており、また、子どもたちの「理科離れ」が問題となっている中で、数多くの実験設備や観察環境が整っている「ムシテックワールド」を利用して、実験や工作など様々なプログラムを体験させる理科教室を実施し、理科授業に対する想像力や思考力・実践力を深める。</p> <p>◆ムシテックワールドで、一小・二小の全校生を対象に理科教室を開催</p>											
	事業実績・成果	<p>◎開催日時及び対象</p> <p>① 11月16日 9:00～11:30 小学4年生 (128人)</p> <p>② 11月21日 9:00～11:30 小学5年生 (107人)</p> <p>③ 11月28日 9:00～11:30 小学6年生 (119人)</p> <p>④ 11月29日 9:00～11:30 小学3年生 (127人)</p> <p>⑤ 11月30日 9:00～11:30 小学1年生 (116人)</p> <p>⑥ 12月 5日 9:00～11:30 小学2年生 (114人)</p> <p>○学校校では得られない貴重な実験等を行い、指導員の説明に耳を傾け楽しみながら理科を学ぶことができている。</p>										
事業費		R5 (単位:千円)						R4 (単位:千円)				
	1,245	国庫支出金					1,174	国庫支出金				
		起債						起債				
		その他						その他				
		一般		1,245				一般		1,174		
課題	<p>●子どもたちが、理科に関して興味・関心を持つことが重要であり、学校においても継続して理科に対して興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組めるような授業を展開していく必要がある。</p>											
事業の評価	<p>●ムシテックで体験した理科の楽しさや感動を授業への興味・関心につなげる必要がある。</p> <p>●一人一人の興味・関心を引き出すきっかけになっているため、継続して理科の楽しさを学べるようにしてほしい。</p>											
	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	4	合計	16	評価
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	4	合計	16	評価	A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性 : 継続			

No.	3	事業名	学力向上支援事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	----------	----	--------

事業目的・内容	<p>町独自の「標準学力調査」を実施し、児童生徒の学力の経年変化や課題傾向を分析し、児童生徒の基礎学力向上に取り組む。 また、教職員のレベルアップ事業として、教職員の研修会、町教育研究会を実施し、教職員の資質の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全国学力・学習状況調査 小6・中3を対象に実施 教科：国語・算数・数学・英語・質問紙（アンケート） ◆ふくしま学力調査 小4～6、中1～2を対象に実施 教科：国語・算数・数学・質問紙（アンケート） ◆町標準学力調査 小2～3を対象に実施 教科：国語・算数 ◆教職員レベルアップ研修 ◆中学生の学習意欲を高め、学力向上につなげる。 英語・数学・漢字の各種検定の受検料（一番高い受検料）を補助 													
	事業実績・成果	<p>◎全国学力・学習状況調査：227人（小学生：113人、中学生114人） ◎ふくしま学力調査：532人（小学生334人、中学生198人） ◎町標準学力調査：234人（小学生234人） ◎教職員レベルアップ研修：1回（参加人数73人）「アンガーマネジメント研修」 ◎各種検定受検者数：104名（受検率30.5%）（対象者：中学校全校生341名） ※延べ人数：漢字82名、数学31名、英語50名 ◎AI型ドリルを引き続き活用</p> <p>○各校において、各学力調査の分析結果を基にした課題の共通理解を図り、学校での指導内容・方法の工夫や改善に取り組んだ。 ○児童生徒の学力状況を確認し、学力向上に繋がるよう指導内容に生かすことができた。 ○令和5年度において、各種検定補助金額を見直し、一番高い受検料を補助することにより、より上の級を受験しやすくなった。 ○AI型ドリルの導入により個に応じた学習を行うことで基礎学力の定着に繋がっている。</p>												
事業費		R5（単位：千円）						R4（単位：千円）						
	2,484	国庫支出金				3,164	国庫支出金							
		起債					起債							
		その他					その他							
一般		2,484		一般			3,164							
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●個別最適化な学びに向けての教職員の資質向上を図る必要がある。 ●中学生の各種検定の受検については、受検を促すような体制づくりが必要である。 													
事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ●全教職員が理解し共通実践に取り組むことが大切である。 ●教職員一人一人の資質向上や指導力向上に繋げること、また、教職員の指導に反映し、学力向上へ繋げてほしい。 ●中学生の各種検定は、より多くの生徒が受検するよう学校の働きかけが必要である。 												
		R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
		R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3		14		A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続					

No.	4	事業名	元気キッズサポーター派遣事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	----------------	----	--------

事業目的・内容	<p>子どもの運動に対する関心や意欲を高めながら体力向上を図るため、体育の授業等を支援する「元気キッズサポーター」を派遣する ※令和3年度から回数を増やして実施</p> <p>◆町立小学校2校へ「元気キッズサポーター」を派遣 ①体育の授業での先生方の指導支援 ②放課後や長期休業中での特設クラブ等の支援 ※1回あたり、1～2名派遣</p>												
	事業実績・成果	<p>◎実施回数・人数 ・一小50回 支援対象延べ3,964人 ※(R4:50回 3,864人) ・二小20回 支援対象延べ817人 ※(R4:20回 802人)</p> <p>◎内容 ・一小：陸上・水泳・持久走・縄跳び・マット運動・バスケットボール・サッカー・走り高跳び・跳び箱 等 ・二小：持久走・サッカー・ダンス・跳び箱・バスケットボール・マット運動・水泳・体力向上トレーニング 等</p> <p>○かがみいしスポーツクラブのスタッフが、学校と連携して体育の授業等で指導をサポートしており、一人一人の体力の状況を考慮して、指導を行った結果、運動に関する興味・楽しさ・意欲を高めることができている。</p>											
事業費		R5 (単位：千円)						R4 (単位：千円)					
	847	国庫支出金				847	国庫支出金						
		起債					起債						
		その他					その他						
一般		847		一般			847						
課題	<p>●この事業を通して、平均以下であった児童の体力について、全体としては平均同等まで向上したが、学年によっては、平均以下の部分もあるため、引き続き運動への関心を更に高め、指導できるような体制づくりも検討する必要がある。</p>												
事業の 評価	意見	<p>●運動に対する興味・関心を持つことができ、運動の楽しさを体得できているため継続して行うべきである。</p> <p>●コロナ禍の影響により肥満傾向にあると思われるため、引き続き指導が必要である。</p>											
	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	3	合計	15	評価	A
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続				

No.	5	事業名	小中学校町民プール利用事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	---------------	----	--------

事業目的・内容	<p>町立小中学校の学校プール施設の老朽化に伴い、町民プール「すいすい」を利用して水泳の授業を実施するとともに、夏休み以降冬休みまでの利用について、5回まで無料として体力向上を図る。</p> <p>◆水泳授業を実施 ◆夏休みから冬休みまでの間の利用を5回まで無料</p>												
	事業実績・成果	<p>◎実施回数等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一小 授業18回(各学年3回) バス45台 ※(R4:各学年3回、バス43台) ・二小 授業12回(各学年4回) バス24台(※2学年同時) ※(R4:学年各4回 バス24台) ・中学校 授業6回(1・2年のみ各3回) バス12台 ※(R4:1・2年 各3回 バス8台) <p>◎夏休み利用 延べ1,282人利用(小学生) ※(R4:994人) 256,400円(@200×1,282人)</p> <p>○町民プール「すいすい」を利用することで、天候に左右されずに水質のよい環境で授業を実施でき、計画的に授業を実施できた。 ○教職員のプールの維持管理の負担軽減につながっている。</p>											
事業費		R5(単位:千円)						R4(単位:千円)					
	3,999	国庫支出金			2,059			国庫支出金					
		起債						起債					
		その他						その他					
一般			3,999			一般			2,059				
課題	<p>●プールまでの移動時間、低学年の着替えなどに時間を要する。そのため、集中して授業を実施しており、授業時間の調整が必要となる。 ●学年ごとに実施するため、一度の人数が多く、水泳授業のスタッフの確保が必要である。</p>												
事業の評価	意見	<p>●学校プール施設について、今後改修などの計画がなければ、適切な環境の中で、水泳授業を受けることができていること、また、水泳授業は必要であることから継続して実施することが望ましい。 ●無料の利用回数を増やすことを検討してもよいのではないか。 ●着替えに時間を要するのであれば、服の中に水着を着るなどの工夫も必要である。</p>											
		R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A		
方今向後性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性 : 継続				

No.	6	事業名	情報化教育推進事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	-----------	----	--------

事業目的・内容	<p>新しい時代の教育に必要な創造性を育む教育を実現するため、GIGAスクール構想事業により、整備したタブレット端末等の有効活用や学校ICTを活用した授業の展開を図る。次代を拓く子どもたちに公正で最適な学びを提供するため、ICT環境を整備し、学校教育の情報化を推進する。</p> <p>また、児童生徒に多様な学習環境を提供できるよう、学習用ICT端末を最大限に活用できる効果的かつ効率的な環境づくりに努める。</p>											
	事業実績・成果	<p>◎ICT機器を活用した学習活動として、デジタル教科書授業、インターネット学習などを実施。</p> <p>◎情報モラル教育について、講師を招き講演会を実施。</p> <p>◎整備実績</p> <p>・パソコン135台（一小38台、二小19台、中学校78）プリンター、複合機、教育ネット接続、デジタルテレビ61台（一小：28台、二小11台、中学校19台、幼稚園2台、公民館1台）、タブレット端末一人1台</p> <p>◎活用時数</p> <p>・タブレット活用</p> <p>一 小：1,784時間 ※（R4:1,745時間）</p> <p>二 小：1,634時間 ※（R4:1,624時間）</p> <p>中学校：4,116時間 ※（R4:1,929時間）</p> <p>◎ICT支援員派遣回数</p> <p>一 小：32回、二小：32回、中学校：32回 ※1回6時間</p> <p>○必要な情報や進路に関する情報等をタブレットで調べたりする学習活動を行うことで、情報活用力の向上を図れている。</p> <p>○グループ活動時などで、リアルタイムに情報を共有することができている。</p>										
事業費		R5（単位：千円）						R4（単位：千円）				
	16,532	国庫支出金		起債		その他	15,968	国庫支出金	315	起債		その他
		一般	16,532				一般	15,653				
課題	<p>●教職員のICT機器活用能力に差があるため、環境整備に合わせICT研修などを実施したり、プログラミング教育などの研修等も行っていく必要がある。</p> <p>●情報モラル教育を引き続き実施していく必要がある。</p>											
事業の評価	<p>●時代に合っている事業であるため、継続して推進すべきである。</p> <p>●教職員のICTに対する教育や研修が必要である。</p> <p>●児童生徒が、いつでもどこでも必要な時にタブレット端末を使える環境の整備が必要である。</p>											
	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	4	合計	15	評価
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	4	合計	15	評価	A
方今 向後 性の	①. 重点化		2. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：重点化			

No.	7	事業名	語学指導外国青年招致事業	担当	教育グループ															
事業目的・内容	<p>語学指導助手を1名招致し、中学生の英語の語学力向上を図る。 国際交流活動で幼児英語教育を実施し、幼少期から英語に触れる機会を作る。 小学校に外国人講師を派遣し、日常生活の中から外国語に親しむ機会を創設し児童の国際感覚を養う。</p> <p>◆中学校 外国語授業・会話の補助、英語弁論大会への協力、外国語教員に対する現職教育への補助</p> <p>◆国際交流活動 鏡石幼稚園や鏡石保育所を訪問し、幼児向け英語教育を実施</p> <p>◆小学校 小学校での英語会話の補助、外国語教育用の教材作成の補助、国際理解関係事業の補助、特別活動等への協力、教員研修活動等の補助</p>																			
事業実績・成果	<p>◎鏡石中学校へ語学指導助手を1名派遣 ◎町で直接雇用した外国人講師を町立小学校へ派遣 一小：週4日勤務 二小：週1日勤務 ◎小・中9年間の継続性を目指した英語力の一層の充実を図った</p> <p>◎活動</p> <table border="0"> <tr> <td>・保育所外国語活動</td> <td>18回</td> <td>※(R4:19回)</td> </tr> <tr> <td>・幼稚園外国語活動</td> <td>19回</td> <td>※(R4:20回)</td> </tr> <tr> <td>・一小外国語活動</td> <td>453時数</td> <td>※(R4:462時数)</td> </tr> <tr> <td>・二小外国語活動</td> <td>125時数</td> <td>※(R4:116時数)</td> </tr> <tr> <td>・中学校英語教育</td> <td>403時数</td> <td>※(R4:490時数)</td> </tr> </table> <p>○外国人講師・語学指導助手と直接、接することにより、英語をより身近に感じることができ、親しみを持てるようになってきている。</p>					・保育所外国語活動	18回	※(R4:19回)	・幼稚園外国語活動	19回	※(R4:20回)	・一小外国語活動	453時数	※(R4:462時数)	・二小外国語活動	125時数	※(R4:116時数)	・中学校英語教育	403時数	※(R4:490時数)
・保育所外国語活動	18回	※(R4:19回)																		
・幼稚園外国語活動	19回	※(R4:20回)																		
・一小外国語活動	453時数	※(R4:462時数)																		
・二小外国語活動	125時数	※(R4:116時数)																		
・中学校英語教育	403時数	※(R4:490時数)																		
事業費	R5 (単位：千円)			R4 (単位：千円)																
	9,457	国庫支出金		9,391	国庫支出金															
		起債			起債															
		その他			その他															
		一般	9,457		一般	9,391														
課題	<p>●幼少期から英語に直接、触れる機会を増やしていくことが必要であるため、公立の幼稚園のみならず、町全体で幼児向け英語教育ができるような体制づくりが必要である。</p>																			
事業の評価	<p>●今後、英語は必要なものであることから幼少期から親しみ、楽しく取り組めるよう、関係機関と連携して取組を推進すべきである。</p> <p>●幼少期から取り組むことで、英語を身近なものとして、身に付けていく場となってきたため、継続して取り組む必要がある。</p> <p>●外国人講師やALTの活用は異文化理解にも繋がっていることから、引き続き活用すべきである。</p>																			
	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A							
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	14		A									
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続											

No.	8	事業名	通学バス乗車券購入補助事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	---------------	----	--------

事業目的・内容	<p>遠隔地（2km以上）から通学する下学年の児童に対して、通学バス乗車券購入補助金を交付し安全の確保と下学年児童の通学の利便を図る。</p> <p>※令和4年度からは、第一小学校学区も対象として実施</p> <p>◆補助金対象者（1年～3年） 旧二小学区から二小へバスを利用して通学している下学年の児童 一小へバスを利用して通学している下学年の児童</p> <p>◆補助金額 学期ごとに定期券を購入し、実績に基づき補助金を交付</p>												
	事業実績・成果	<p>◎実績人数 ・一小：1年3名 2年0名 3年3名 計 8名 ※(R4:7名) ・二小：1年3名 2年4名 3年2名 計 9名 ※(R4:10名)</p> <p>◎補助金額 ・一小 補助金額 185千円 ・二小 補助金額 297千円</p> <p>○令和4年度からは、一小的遠距離通学している児童も対象として拡大した。 ○遠距離通学する下学年の児童安全の確保と下学年児童の通学の利便性が図られている。</p>											
事業費		R5（単位：千円）						R4（単位：千円）					
	481	国庫支出金					533	国庫支出金					
		起債						起債					
		その他						その他					
		一般		481				一般		533			
課題	<p>●路線バスの経路外の遠距離通学している児童や、バスの運行時間の関係によりバス通学できない児童もいるため、コミュニティバス、スクールバス、路線バス会社への要望なども含め、様々な視点で検討していく必要がある。</p>												
事業の評価	意見	<p>●送迎による登下校が増えている中で、一部の児童しか利用できない状況であること、遠距離でもバス通学ができない児童がいることを踏まえ、スクールバスやコミュニティバスを検討していく必要がある。</p> <p>●今後の対象児童を把握し、改善を検討する必要がある。</p>											
		R5	必要性	3	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	11	評価
	R4	必要性	2	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	10	評価	C
方今 向後 性の	1. 重点化		2. 継続		③. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続				

No.	9	事業名	教育支援事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	--------	----	--------

事業目的・内容	<p>○授業内容により、外部の専門的知識や技術を持つ講師を活用し、担任とチームティーチング方式で授業を展開することで児童生徒の興味や関心を喚起し、特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>◆専門的な知識や技術を持つ外部講師を招き、児童・生徒が興味・関心を持って、意欲的に学べる授業を実施</p> <p>○中学校の部活動において、専門性の高い外部講師（部活動指導員）を配置し生徒の技術の向上と教職員の負担軽減を図り、教職員の働き方改革につなげる。</p> <p>○中学校の部活動地域移行に向け、かがみいしスポーツクラブへ「中学校地域部活動推進事業支援業務」を委託し、児童生徒や保護者へのアンケート実施や、今後の部活動地域移行にむけ検証を行う。</p>												
	事業実績・成果	<p>◎実施内容・回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一 小：水泳教室 18回 音楽教室 8回 珠算教室 1回 計 27回※(R4:11回) ・二 小：水泳教室 11回 命の授業 4回 珠算教室 1回 社会科授業 2回 計 18回※(R4:13回) ・中学校：命の授業 2回 聾者講話 1回 計 3回※(R4:2回) ・幼稚園：音楽教室 5回 よさこい教室 5回 水泳教室 3回 計 13回※(R4:11回) <p>○専門家から直接学ぶことにより、より多くの専門的分野に興味・関心を持つことができている。</p> <p>◎部活動指導員を配置（女子バレーボール）に配置：年間399時間</p> <p>○教職員の負担軽減と生徒の技術の向上が図れた。</p> <p>◎地域部活動推進事業支援業務委託：指導補助 20回 58時間実施、アンケート調査</p> <p>○今後の地域移行について、課題や内容などについて検討会を開催した。</p>											
事業費		R5（単位：千円）						R4（単位：千円）					
	1,562	国庫支出金	375	起債		その他	1,187	833	国庫支出金	375	起債		その他
課題	<p>●専門的な話を聞き将来につながるよう、また、児童・生徒が多様な分野へ興味・関心を持てるような内容の授業を展開していく必要がある。</p> <p>●部活動の地域移行については、各自治体でも課題が多く、指導者の確保や受入れ先がないこと、また、保護者負担の増などから、指導者の育成・受入れ先など様々な面について、国の指針に基づき、地域移行できる部活動について関係機関と協議・検討していく必要がある。</p>												
事業の評価	意見	<p>●専門的スキルを持つ外部講師の活用は、子どもたちの興味関心を引き出し、意欲を高める効果があると同時に、知識を得ることにより視野が広がっているため引き続き活用すべきである。</p> <p>●部活動指導員については、バレーボールのみならず他の部活動への拡充も必要である。</p> <p>●部活動の地域移行は、多くの課題があるため慎重に進める必要がある。</p>											
		R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A		
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続				

No.	10	事業名	特別支援教育支援事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	------------	----	--------

事業目的・内容	<p>小中学校において、特別な支援を必要とする児童生徒に対し、適切できめ細かな教育的支援、集団生活、学校生活の支援を行うため、支援員を配置し、特別支援教育の充実を図る。</p> <p>◆特別支援学級へ入級している児童のみならず、配慮を必要とする児童生徒に対し、困り感や不安感をやわらげ、学校生活を送れるように支援する。 ◆自らできることを増やし、疎外感を感じないように楽しく学校生活を送れるよう支援する。</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎支援員配置実績 一小： 6名 二小： 3名 中学校： 2名 幼稚園： 2名 計 13名</p> <p>◎支援学級人数 一小： 16名 二小： 7名 中学校： 6名 幼稚園： 10名 ※ (R4 17名 10名 4名 4名)</p> <p>○個に応じた適切な支援が行われており、学級・学校運営の円滑化、更には特別支援教育の充実が図れている。</p>
---------	--

事業費	R5 (単位：千円)			R4 (単位：千円)		
	19,329	国庫支出金		21,637	国庫支出金	
		起 債			起 債	
		そ の 他			そ の 他	
	一 般	19,329		一 般	21,637	

課題	<p>●特別な配慮を必要とする児童・生徒が増加傾向にあり、また、障害の状態が多様化しているなど、個々の状況に応じた支援が求められているため、必要に応じた支援員の配置をする必要がある。</p>
----	---

事業の評価	意見	<p>●支援を要する児童生徒が増加傾向にあるため、支援員の増員が必要となることから、財源の確保が重要である。(国や県に補助事業への採択要望をしてみようか)</p> <p>●保護者・関係機関と連携を図るとともに、研修を通して適切な関わり方ができるよう教職員のスキルアップが必要である。</p> <p>●支援員の配置により、適切な支援がなされているため適正な配置が必要である。</p>
-------	----	--

R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3		14		A

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性 : 継続
----------------	--------	-------	-------	-------	--------------

No.	11	事業名	放射線教育体験事業				担当	教育グループ					
事業目的・内容	<p>東日本大震災・原子力災害伝承館で放射線に関する正しい知識を習得するとともに、東日本大震災を振り返ることで、環境回復や復興に向けた取組について学習し、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活をおくるために、自ら考え行動できる力を育成する。</p> <p>◆中学1年生を対象に東日本大震災・原子力災害伝承館で体験学習を実施</p>												
	事業実績・成果	<p>◎東日本大震災・原子力災害伝承館で体験学習を実施した。 実施日：令和5年9月8日（金） 参加者：106名 体験内容：伝承館見学・フィールドワーク</p> <p>○目に見えない放射線とはどんなものなのか知識を深め、自ら被災地へ訪れることで未曾有の複合災害に理解を深め、福島環境回復や復興に向けた取組を学ぶことができている。</p>											
事業費		R5（単位：千円）					R4（単位：千円）						
	298	国庫支出金				265	国庫支出金						
		起債					起債						
		その他					その他						
一般		298		一般		265							
課題	<p>●令和5年度から、震災当時に生まれていない子どもが学習している。そのため、東日本大震災がどういった災害だったのか？など事前に学習する機会を作ることも必要である。</p>												
事業の評価	意見	<p>●震災を体験していない生徒がこの事業を通して、震災を知ってもらうこと、正しい情報や知識を伝えることが重要であるため、伝承館での体験学習は継続すべきである。</p> <p>●放射線について正しい知識をえることはもちろん、他の災害についても考える場になるよう今後も、引き続き体験学習を実施すべきである。</p>											
		R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	14		A	
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続				

No.	12	事業名	多子世帯学校給食補助事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	--------------	----	--------

事業目的・内容	<p>多子世帯（小中学校に2人以上の児童生徒を養育）に対し、保護者の経済的な負担を軽減し、子育て支援を推進する。</p> <p>◆小学校と中学校に就学している児童生徒が2人以上いる多子世帯に対し、2人目以降の学校給食費の1/2を補助。（100円未満切捨て）</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎鏡石町内に在住している、多子世帯に対し保護者が負担する学校給食費の1/2を補助。 実績 316人 8,849,000円</p> <p>第一小学校：217人 6,042,000円 第二小学校：65人 1,790,900円 鏡石中学校：33人 985,100円 須賀川第三小学校：1人 31,000円（区域外就学）</p> <p>○多子世帯に対し、学校給食費の一部を補助することにより、保護者の負担軽減が図られている。</p>
---------	---

事業費	R5（単位：千円）			R4（単位：千円）		
	8,849	国庫支出金		0	国庫支出金	
		起債			起債	
		その他			その他	
一般		8,849	一般			

課題	<p>●小中学校に2人以上養育している世帯の第2子以降の給食費を半額補助しているが、学校給食費の無償化を、各自治体で実施しており、自治体により差が出ている現状がある。町全体の給食費無償化を実施するには財源の確保が必要である。</p>
----	--

事業の意見	<p>●子育て支援として、多子世帯の保護者の経済的負担軽減が図られているため今後も継続していく必要がある。</p> <p>●全児童生徒を対象とすると財源確保が困難なことから国や県に補助金制度の確立と全児童生徒を対象に無償化すべきと要望することが必要である。</p>
-------	--

事業の評価	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R4	必要性	/	有効性	/	効率性	/	達成度	/	合計	/	評価	/

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： —
----------------	--------	-------	-------	-------	------------

No.	13	事業名	幼稚園子育て支援事業				担当	教育グループ				
事業目的・内容	<p>子育て支援として、3歳児保育及び預かり保育（一時預かり・常時預かり）を実施する。</p> <p>◆3歳児保育の実施 ◆預かり保育の実施</p>											
	事業実績・成果	<p>◎3歳児保育：9名 ※（R4:12名） ◎預かり保育 常時預かり：23名 ※子育て支援制度利用であるため無償 ※（R4:24名） 一時預かり 延べ61名（1回500円） ※（R4:87名）</p> <p>※幼稚園講師2名を雇用し配置（会計年度任用職員）</p> <p>○共働き世帯の増加や核家族、家庭環境の変化により3歳児からの幼稚園教育を実施、また、幼稚園教育終了後の午後の預かり、長期休業中の預かりなど預かり保育を実施し、子育て支援の充実が図れた。</p>										
事業費		R5（単位：千円）					R4（単位：千円）					
	3,911	国庫支出金	2,234			5,276	国庫支出金	2,223				
		起債					起債					
		その他	18				その他	43				
	一般	1,659				一般	3,010					
課題	<p>●少子化時代であり、年々幼稚園へ入園する園児が減少している。保育が必要な場合は保育所へ入所できることや私立幼稚園が充実してきていることから預かり保育や幼稚園の在り方の検討をする必要がある。</p>											
事業の評価	意見	<p>●子育て支援としては、3歳児保育、預かり保育事業は有用であることから継続が望ましいが、園児数が減少していることから、幼稚園のあり方を検討すべきである。</p> <p>●預かり保育は必要であることから、町の子育て施策として預かりのできる保育施設のあり方を検討する必要がある。</p>										
		R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A	
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続			

No.	14	事業名	育英資金貸付事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	----------	----	--------

事業目的・内容	<p>鏡石町に住所を有する学生に経済的理由により修学困難と認められる者に対して、育英資金を無償で貸与し教育の機会均等を図る。</p> <p>◆貸与額：大学生50,000円（6年制大学は60,000円）を上限 高校生15,000円を上限</p> <p>◆入学準備金：30万～70万以内</p> <p>◆返還期間：修学した年数の2倍から3倍の期間で返済</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎新規貸付者：0名 ※(R4:0名)</p> <p>◎継続貸付者：1名 貸付額 600千円</p> <p>◎返還者：10名 返還額 2,509千円</p> <p>○経済的理由により修学困難な学生に対し、教育の機会均等が図れている。</p>
---------	--

事業費	R5（単位：千円）				R4（単位：千円）			
	600	国庫支出金			600	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他	600			その他	600	
一般				一般				

課題	<p>●国などの給付型奨学金などの制度が充実してきており、町の制度利用の需要が少ないのが現状である。貸付条件の見直しを図ったところであるが、給付型も視野に入れ検討する必要がある。また、給付型の場合の財源についても検討していく必要がある。</p>
----	--

事業の意見	<p>●貸与型については縮小し、給付型を検討する必要がある。</p> <p>●町以外の制度が充実している中で、町として制度を見直す必要がある。</p>
-------	---

事業の評価	R5	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	12	評価	B
	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	2		12		B

方今 向後 性の	1. 重点化	2. 継続	3. 改善	④. 縮小	前年度の方向性：継続
----------------	--------	-------	-------	-------	------------

No.	15	事業名	社会教育関係団体支援事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	--------------	----	----------

事業目的・内容	<p>町の社会教育関係団体等の運営費の一部を補助することにより、各組織の人材育成・活性化を図り、心豊かな潤いのあるまちづくりを形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子ども会育成会連絡協議会 ◆PTA連絡協議会 ◆婦人会 ◆花いっぱい運動実行委員会 ◆青少年育成町民会議 ◆生涯学習文化協会
---------	--

事業実績・成果	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に緩和されたことにより、各団体ともに活動休止及び規模縮小などから、感染対策は継続した中で通常どおりに各種事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎子ども会育成会連絡協議会 180千円（育成会対抗⇒スポーツ体験型として実施） ◎PTA連絡協議会 90千円 ◎婦人会 90千円 ◎花いっぱい運動実行委員会 1,270千円 ◎青少年育成町民会議 800千円 ◎生涯学習文化協会 2,000千円
---------	---

事業費	R5（単位：千円）				R4（単位：千円）			
	4,430	国庫支出金			3,730	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他				その他		
一般			4,430	一般			3,730	

課題	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習の推進と各種団体の自主性及び後方支援の在り方について、見直しを含め、検討する必要がある。 ●外郭団体の安定した運営のため、町補助金の検証が必要である。
----	---

事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ●社会教育関係団体支援は地域住民の繋がりや地域活性化には必要であることから、継続して事業を展開すべきである。 ●青少年育成町民会議は、地区活動を再点検すべきである。 ●広くPRし多くの人に参加していただけるよう呼びかけが必要である。
-------	----	--

R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3		13		B

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性：継続
----------------	--------	-------	-------	-------	------------

No.	16	事業名	家庭教育学級事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	----------	----	----------

事業目的・内容	<p>家庭における父母の役割についての学習や親同士の交流の機会を提供し、家庭の教育力の向上と活性化を図る。</p> <p>◆学校関係機関及び教育委員会が選定した家庭教育関係講師及び指導者により、家庭の教育向上に関する講演会等を実施</p>											
	<p>事業回数：1件（鏡石幼稚園） ※R3:2回、R4:1回</p> <p>受講者数 69名 ○園児 35名 ○保護者 34名</p> <p>内 容 影絵 講 師 影絵劇団赤とんぼ（3名） 郡山市社会福祉協議会ボランティア、郡山市きらめきバンク達人先生登録</p>											
事業実績・成果2												
事業費	R5（単位：千円）						R4（単位：千円）					
	15	国庫支出金					15	国庫支出金				
		起債						起債				
		その他						その他				
		一般		15				一般		15		
課題	<p>●家庭教育力は、幼・保、小学生の家庭は家庭教育の基盤世代であるため、町内の幼児教育施設を中心として行っていく必要がある。</p> <p>●内容や日程など、保護者が参加しやすい工夫が必要である。</p>											
事業の意見	<p>●家庭教育力向上に役立つ事業であるが、事業回数の減少からあり方を再検討すべきである。</p> <p>●保護者が興味を持てる内容や参加しやすい日程を検討すべきである。</p>											
	R5	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価
R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続			

No.	17	事業名	学校支援地域本部事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	------------	----	----------

事業目的・内容	<p>地域の人々が個々の特性を生かして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用の機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティーの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築を図る。</p> <p>学校支援事業の効果的かつ円滑な取組を推進するために学校支援地域本部「学校応援団」を設置し、小中学校事業及び幼稚園への支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校の要請に基づく支援 ◆ ボランティアの募集、研修会の実施 ◆ 事業の普及啓発・広報（活動チラシ・HP・SNS）
---------	---

事業実績・成果	<p>◎コーディネーター：2名配置</p> <p>◎ボランティア回数：36回 ※（R3:46回、R4:53回）</p> <p>◎ボランティア数：延べ197名 ※（R3:136名、R4:164名）</p> <p>◎ボランティア登録数：45名 ※（R3:62名、R4:60名）</p> <p>①夏休みフリー寺子屋（小・中学校）</p> <p>②家庭科裁縫、ミシン補助（小学校）</p> <p>③むかし遊び、将棋クラブ児童指導（一小）</p> <p>④新一年生下校引率、花壇整備の補助（二小）</p> <p>⑤サッカー教室指導（幼稚園）</p> <p>⑥入学式、卒業式等学校事業支援（駐車場誘導等）</p> <p>※新型コロナウイルス感染症が5類へ引き下げ後も感染対策を継続しながら実施</p> <p>○事業を通して、学校と地域の交流や地域住民の生きがいつくりなどの成果を得ている。</p> <p>○平成20年から継続して実施している中で、支援に対する学校の理解、信頼、感謝が深まっている。</p>
---------	--

事業費	R5（単位：千円）			R4（単位：千円）		
	1,208	国庫支出金	798	1,259	国庫支出金	835
		起債			起債	
		その他			その他	
一般		410	一般		424	

課題	<p>●ボランティアに登録していただいている方が高齢化しており、若い世代のボランティア登録を推進することが必要である。</p>
----	---

事業の評価	意見	<p>●学校支援を地域住民が行うことは重要であり、人材確保に努め、継続すべきである。</p> <p>●子ども達の知的探求心や好奇心を引き出すような事業内容を行うため地域人材の活用を図るべきである。</p> <p>●地域の人たちの交流を図れる場とすべきである。</p>											
-------	----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R4	4		4		3		3		14		A

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性：継続
----------------	--------	-------	-------	-------	------------

No.	18	事業名	生涯学習の振興 《各世代の学級・講座》	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	------------------------	----	----------

事業目的・内容	<p>(1) 高齢者学級「いきいき学級」 高齢者が、話し合いや種々の学習・講座などをおして、健康を保ち生活を楽しみ、変化する生活環境に応じて、生きがいと新しい知識・技術を習得する。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p> <p>(2) 女性学級「ジョイフルライフ講座」 向学心豊かな年代の女性を対象に、体験学習や社会参加を通して、生活の向上や自己研鑽を図り、ゆたかな人間性を養い、女性としての資質や能力を高め、明るく健全な家庭づくりに役立てる。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p> <p>(3) 大人の講座「男性専科」 社会活動に消極的になりがちな年代の男性を対象に、学習の場を提供し、精神的・肉体的に明るくいいきとした、生きがいある新しい知識・技術を習得する。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p> <p>(4) 青少年教室「アドベンチャークラブ」 子どもたちの社会性を養うことを目的に集団生活を通して、様々な体験により、子ども達の興味・関心の幅を広げるとともに、多くの自然に触れることにより環境に対する意識の向上を図る。 ◆対象：第一小学校、第二小学校の3学年から6学年</p>													
	事業実績・成果	<p>コロナ禍により高齢者学級は休講となったが、各世代の学級・講座ともに感染対策をとった中で、活動プログラムを実施した。</p> <p>(1) 高齢者学級「いきいき学級」 会員数54名(参加者数延べ15名) ◆「いきいきスマホ教室」を2回開催 参加者数延べ15名 36千円</p> <p>(2) 女性学級「ジョイフルライフ講座」 会員数20名 参加者数延べ102名 ◆年6回のプログラムにより各種学習(生涯学習文化協会連携事業) 397千円</p> <p>(3) 大人の講座「男性専科」 会員数6名 参加者数延べ20名 ◆年5回のプログラムにより各種学習(生涯学習文化協会連携事業) 101千円</p> <p>(4) 青少年教室「アドベンチャークラブ」 会員数33名 参加者数延べ73名 ◆年7回のプログラムによる活動(一般会計：公民館費) 910千円</p>												
事業費		R5(単位：千円)						R4(単位：千円)						
	1,444	国庫支出金		300		686	国庫支出金		322		合計	14		
起債				起債					14					
その他		234		その他			317		評価			A		
一般		910		一般			47		A					
課題	<p>●参加者数の減少及び受講者の高齢化や同一者、各世代の実情に沿ったプログラム作りが課題である。</p>													
事業の評価	<p>●各世代について、それぞれ適した事業となっているが、毎年同じプログラムではなく、アンケートや意見を聞き、プログラム作成をすべきである。</p> <p>●いきいき学級の参加者が少ないことから、回数や内容を検討し改善することが必要である。</p> <p>●高齢者が積極的にかかわられる場になるような事業を展開する必要がある。</p>													
	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A	
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	14					A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続					

No.	19	事業名	社会教育推進事業 《まちづくり講座・単科講座》				担当	生涯学習グループ					
事業目的・内容	<p>(1) まちづくり講座 岩瀬農業高等学校と地域連携・学社連携事業として園芸、果樹等の学びの場を開催する。 ◆ガーデニング教室（一般会計：公民館費）</p> <p>(2) 単科講座 一般町民を対象に、単一分野に特化した内容プログラムで開催し、生きがいや趣味づくりから文化の高揚を図る。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p>												
	事業実績・成果	<p>岩瀬農業高等学校による「ガーデニング教室」は、生徒がメイン講師で一般町民が生徒（受講者）になることで、話題性と人気が高い講座として開催している。 単科講座においては、自分自身の趣味の延長だけでなく、文化祭への展示発表を行うことで成果発表につながり、少数人数の中でも充実した活動プログラムで行うことができている。</p> <p>(1) まちづくり講座 311千円 ◆ガーデニング教室 全6回のプログラム 受講者数16名（女性のみ）</p> <p>(2) 単科講座 311千円 ◆初心者俳句教室 全6回のプログラム 受講者数7名（男性1名、女性6名） ◆手芸教室 全6回のプログラム 受講者数7名（女性のみ） ◆七宝焼き教室 年5回のプログラム 受講者数6名（男性1名、女性5名）</p>											
事業費		R5（単位：千円）					R4（単位：千円）						
	622	国庫支出金				179	国庫支出金						
		起債					起債						
		その他		311			その他		179				
		一般		311			一般						
課題	●現状に見合った事業内容の検討や、募集方法の工夫などが検討課題である。												
事業の意見	●地域資源の活用がなされているが、事業内容の周知については工夫が必要である。												
	●単科講座は、ニーズを把握し事業内容を検討すべきである。												
事業の評価	R5	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B
	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続				

No.	20	事業名	図書館事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	-------	----	----------

事業目的・内容	<p>社会教育の中心的施設及び生涯学習であるという認識の中で、幼児から高齢者までを対象にした自主事業を行い、地域住民に親しまれ、利用しやすい図書館の運営を図る。</p> <p>◆図書の新し出し ◆造形教室の開催 ◆町立幼稚園・小中学校への移動図書館 ◆小学校でのお話会 ◆計画的な図書の購入</p>											
	事業実績・成果	<p>◎図書の貸出 ・延べ入館者数：60,474人 (R4:62,870人) ・延べ貸出人数：12,937人 (R4:12,191人) ・延べ貸出点数：47,447点 (R4:45,476点)</p> <p>◎造形教室の開催 ・全4回 (講師：絵本・造形作家 菊地 清 先生)</p> <p>◎町立小・中学校への移動図書館 ・一小：1,335人 2,606冊 (R4:505人、942冊) ・二小：129人 232冊 (R4:296人、398冊) ・中学：28人 62冊 (R4:65人、119冊)</p> <p>◎小学校でのお話会 ・一小：6回 (1,2年生) 483人 ・二小：10回 (全学年各クラス) 181人</p> <p>◎計画的な図書等の購入 ・図書1,299冊、DVD19点</p>										
事業費		R5 (単位：千円)					R4 (単位：千円)					
	37,887	国庫支出金				35,651	国庫支出金	3,300				
		起債					起債					
		その他					その他					
		一般	37,887				一般	32,351				
課題	<p>●これまでどおりの図書館運営ではなく、施設の一部で休憩がとれるような空間を設けるなど、利用者及び社会のニーズに沿った施設検討が必要である。</p> <p>●生涯学習の推進として、公民館及び生涯学習文化協会との連携が必要である。</p>											
事業の評価	意見	<p>●町民が親しんで利用しやすい施設であるため更なる工夫改善を図る必要がある。</p> <p>●本の貸出のみならず、立ち寄りやすく休憩しやすい場として工夫していく必要がある。</p> <p>●SNSを活用し情報発信し、サービス向上に努めるべきである。</p> <p>●休憩スペースの新設や読書啓発のための事業内容の充実を図る必要がある。</p>										
		R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	4	合計	15
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	4	合計	15	評価	A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続			

No.	21	事業名	子ども会球技大会	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	----------	----	----------

事業目的・内容	<p>【球技大会】 夏季休業中における児童・生徒の生活指導の一環として、体力の向上と青少年の健全育成を図ることを目的として、公民館共催のもと子ども育成会対抗の球技大会を開催する。</p> <p>【子育連】 町内における子ども会育成会相互の連絡調整を密にすることにより、子どもの健全育成についての共通理解を深め、あわせて家庭教育並びに社会教育（青少年教育）の育成に資することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子ども会育成会連絡協議会への連携及び支援 ◆子ども会球技大会 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進員、かがみいしスポーツクラブとの連携 											
	事業実績・成果	<p>令和2年度から令和4年度までの事業が中止となり、4年ぶりの開催となったが、単位育成会との協議の結果、育成会対抗事業となると参加できる単位育成会が少数限定となることから、スポーツ体験イベントとして開催した。</p> <p>【体験種目】</p> <p>①フットサル 50人 講師：サッカースポ少 ※R1:12チーム、90人 ②ドッチボール 84人 審判：スポーツ推進員 ※R1:9チーム、69人 ③モルック 42人 講師：かがみいしスポーツクラブ ※ニュースポーツ ④その他 レクリエーション（終了後、ビンゴ大会）</p>										
事業費		R5（単位：千円）					R4（単位：千円）					
	460	国庫支出金				0	国庫支出金					
		起債					起債					
		その他	460				その他					
		一般					一般					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会の中心的事業として長年実施してきたが、少子化により子ども会会員数が減少していることもあり、単位子ども会自体が成り立たないなど、事業運営に大きく影響している。 ●単位会長と実施内容を協議し、関係団体と連携し、工夫しながら参加しやすいイベント事業にする必要がある。 ●子どもの個人活動の選択肢が増加していることもあり、子ども会育成会自体がどうあるべきか見つめ直す時期である。 											
事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会自体が成り立っていない状況であることから改善を検討すべきである。 ●少子化にあった事業名に変更し、青少年健全育成と体力向上を図る事業に改善すべきである。 ●スポーツ体験イベントとしての開催は適切である。 											
	R5	必要性	3	有効性	3	効率性	2	達成度	2	2	10	評価
R4	必要性	4	有効性	3	効率性	2	達成度	2	2	11	評価	B
方今 向後 性の	1. 重点化		2. 継続		③. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続			

No.	22	事業名	鏡石駅伝・ロードレース大会	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	---------------	----	----------

事業目的・内容	<p>前事業「牧場の朝ロードレース大会」から駅伝の部創設と名称を変更し、唱歌「牧場の朝」のまち鏡石を「走る」ことにより、健康づくりを推進し、体力の維持向上を目指し、町民が気軽に参加できる大会とするとともに、広く参加者を求め親睦を図る。</p> <p>◆ロードレースの部 15部門（1km～4km）</p> <p>◆駅伝の部 部門 ・第1部（5区間18.0km） 中学生以上の男女混成チーム</p> <p>※ 鳥見山陸上競技場改修工事のため、令和5年度に限りコースの変更及び規模縮小して開催する。</p> <p>◆ゲストランナー 小森コーポレーション 山本竜也 （鏡石町出身／学法石川高／城西大学／実業団へ） ⅢF 田母神一喜（学法石川高／中央大学）</p>												
	事業実績・成果	<p>◎開催日時 令和5年11月5日（日）午前9時スタート</p> <p>◎参加者 ロードレースの部 エントリー数1,249人、 当日完走者 1,269人 駅伝の部 第1部 エントリー数 48チーム、当日出場チーム45チーム</p> <p>申込総数 1,729人（うち町内者1,036人） ※県外者3件（特別賞）</p> <p>○ 町内小学校は学校行事として児童全員の参加により、参加者は増加傾向にある。また、ロードレース部門においては、親子や学年毎など年齢にあった距離を走ることにより、走ることの楽しさなどを体感できている。</p> <p>○ 駅伝の部で距離を短くしたことにより、より参加しやすくなり、参加チームが競技者及び愛好者ともに増加した。</p>											
事業費		R5（単位：千円）						R4（単位：千円）					
	4,363	国庫支出金		起債		その他	1,863	5,032	国庫支出金		起債		その他
		一般	2,500						一般	3,000			
課題	<p>●補助スタッフの人数拡大と運営方法の改善を図り、スムーズで効率的にするための工夫が必要である。</p> <p>●大会の特色と町の魅力をどうPRすることかが重要である。</p> <p>●駐車場の割り振り、町立小学校の参加者送迎の方法など、駐車場の確保に工夫が必要である。</p>												
事業の評価	意見	<p>●健康づくり、体力維持向上としての大会としては認知されており、役立っていることから継続して実施していく必要がある。</p> <p>●地域の活性化にも繋がっているため継続が望まれる。</p>											
	R5	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A		
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続				

No.	23	事業名	体育施設管理運営事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	------------	----	----------

事業目的・内容	<p>鳥見山陸上競技場内の管理事務所を中心に、総合的な調整と維持管理を行い、町内社会体育施設の有効活用を図る。また、町民プールにおいては、指定管理者による管理運営を行い、民間事業者のノウハウを活用したサービス向上と経費削減を図る。</p> <p>◆運営施設</p> <p>①鳥見山陸上競技場（全面改修：ウレタン舗装、天然芝張替等） ②鳥見山多目的広場 ③鳥見山体育館 ④鳥見山野球場 ⑤鳥見山テニスコート ⑥町民プールすいすい（指定管理） ⑦構造改善センター</p>																																																																																			
	事業実績・成果	<p>◎施設数：7施設 利用者数：155,650人 ※(R4:156,513人)</p> <p>(1) 直営管理・一部委託</p> <table border="1"> <tr> <td>①鳥見山陸上競技場</td> <td>12,554人</td> <td>(R4:24,619人)</td> <td colspan="9">※後期：改修工事</td> </tr> <tr> <td>②鳥見山多目的広場</td> <td>16,408人</td> <td>(R4:20,217人)</td> <td colspan="9"></td> </tr> <tr> <td>③鳥見山体育館</td> <td>22,652人</td> <td>(R4:21,995人)</td> <td colspan="9"></td> </tr> <tr> <td>④鳥見山野球場</td> <td>4,501人</td> <td>(R4:3,469人)</td> <td colspan="9"></td> </tr> <tr> <td>⑤鳥見山テニスコート</td> <td>8,690人</td> <td>(R4:9,321人)</td> <td colspan="9"></td> </tr> <tr> <td>⑥構造改善センター</td> <td>14,530人</td> <td>(R4:13,867人)</td> <td colspan="9"></td> </tr> </table> <p>(2) 指定管理制度</p> <p>①町民プール「すいすい」 76,315人 (R4:65,301人)</p> <p>(3) 鳥見山陸上競技場トラック改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工期 令和5年9月19日～令和6年3月25日 ・工事費 261,610,800円 (toto助成金:100,000千円、公適債:152,000千円) 												①鳥見山陸上競技場	12,554人	(R4:24,619人)	※後期：改修工事									②鳥見山多目的広場	16,408人	(R4:20,217人)										③鳥見山体育館	22,652人	(R4:21,995人)										④鳥見山野球場	4,501人	(R4:3,469人)										⑤鳥見山テニスコート	8,690人	(R4:9,321人)										⑥構造改善センター	14,530人	(R4:13,867人)								
①鳥見山陸上競技場		12,554人	(R4:24,619人)	※後期：改修工事																																																																																
②鳥見山多目的広場	16,408人	(R4:20,217人)																																																																																		
③鳥見山体育館	22,652人	(R4:21,995人)																																																																																		
④鳥見山野球場	4,501人	(R4:3,469人)																																																																																		
⑤鳥見山テニスコート	8,690人	(R4:9,321人)																																																																																		
⑥構造改善センター	14,530人	(R4:13,867人)																																																																																		
事業費	R5 (単位：千円)						R4 (単位：千円)																																																																													
	371,553	国庫支出金					105,041	国庫支出金				9,240																																																																								
起債			152,000			起債																																																																														
その他			100,000			その他																																																																														
一般			119,553			一般					95,801																																																																									
課題	<p>●管理体制及び人員の確保及び指定管理者制度を検討する必要がある。</p> <p>●老朽化施設についての改修など、公園施設長寿命化計画に沿って関係機関と連携を図る必要がある。</p>																																																																																			
事業の評価	意見	<p>●施設が老朽化していることから、計画的な改修や財源の確保に努めることが必要である。</p> <p>●指定管理制度を全体に導入し、効率的な運営に努めるべきである</p> <p>●施設の利用促進と有効活用のための更なる工夫改善が必要である</p>																																																																																		
		R5	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B																																																																						
R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B																																																																								
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続																																																																											